教 会 月 報

No.524 （2022 年 8 月 28 日）
【２０２２年９月号】
日本キリスト教団埼玉和光教会
〒351-0114　和光市本町 15-50

御言葉によって共に喜び合う

岩河 敏宏

詩編 133 編 1 節，3 節

1 見よ、兄弟が共に座っている。
　なんという恵み、なんという喜び。
3 ヘルモンにおく露のように
　シオンの山々に滴り落ちる。
　シオンで、主は布告された
　祝福と、とこしえの命を。

詩編133編の背景について、学者の間では概ね二つの時代が想定され、一つ目はダビデ王の時代です。彼の登場によって、イスラエルはようやく一つの国として独立を勝ち取り、ダビデのもとで兄弟たちが和合する喜びを詠っているとの解釈です。二つ目は、バビロン捕囚からの帰還民たちが破壊されたエルサレム神殿を再建し、祭司を中心に新しい社会を形成していった時代です。そこでは、離散した民が再び神殿で礼拝を捧げる夢が実現し**「見よ、兄弟が共に座っている」（1 節）**ことは決して当たり前ではなく、離散した兄弟たちが再び帰還し共に礼拝を守ることができた驚きと喜びを中核に据えた詩となります。

想定された二つの時代において、**「兄弟が共に座っている」**に込められた具体的な状況は異なっていますが、詩に込められた“恵み”と“喜び”には共通したものがあります。それは神によって、集められた者が共に礼拝を守れる恵みを喜ぶことではありません。詩編 133 編（口語訳）の最後は、**「これは主がかしこに祝福を命じ、とこしえに命を与えられたからである。」（3 節）**とあり、主が（私たちに先んじて）かしこ（礼拝しているこの場を）祝福し（私たちに）命を与えられたからだ、と告白しています。主が総てに先んじて、私たちを祝福し命を与えて下さる。主が私たちとの繋がりで創りたいのは、共に生きる命と祝福です。それを受けるために、皆が共に集い礼拝を捧げるのです。礼拝は、常に神の恵みが先行しています。

神こそが愛する者たちと「共に座る」ことを許し、この豊かな時を**「とこしえ（永遠）」**までと宣言されます。この詩編にある“シオン”とは、エルサレムのことでそこに住む総て（老若男女）が神の祝福の対象です。神がされた破格の恵みに対する驚きと喜び、これこそが 133 編の核心です。であれば、神が恵みを備え礼拝に招いておられるのは、総ての人です。また、礼拝に集う私たちの意識も、聖書に記された神の言葉を聴くことの前に、“今日”埼玉和光教会に集えた方（ライブ配信の視聴者を含め）がいることを共に喜ぶことが出来れば、と感じます。子どもから大人まで、総ての人が「御言葉によって共に喜び合う」恵みを、神は整えています。神の前に総ての人が集える喜びを、礼拝に集う総ての方と表現する夢を持ちたい。